

## 令和2年度 第1回(第2回)就労支援部会

【開催日時】 令和2年8月7日(金) 14:00~15:00

【場 所】 ぴあリンク奄美2階会議室

【参加者】 すまいる、あまみん、愛の浜園、ていだ、カナン工房、星窪きらり、ユーアイ工房、みどり厚生事業所、あしたば園、QOLEAD、奄美市福祉政策課、笠利いきいき健康課、龍郷町保健福祉課、夢来夢来、あまみ障害者就業生活支援センター、ぴあリンク奄美 合計21名

◎進行：登山 ◎記録：福崎

### 1.自己紹介

### 2.事務局より

- ・今年度の部会運営について(別紙資料①~④)

### 3.行政から(奄美市福祉政策課)

◎新型コロナウイルス感染が地域で発生した際の対応について

- ・この後、事務局運営委員会議で、各フェーズを想定したあり方や動きをまとめる予定。
- ・事業所へチェックリストを用いて取り組んでもらうように準備している。
- ・早い段階で示されるように取り組んでいく。
- ・各事業所に対応計画書の作成及び提出依頼(アンケート提出)
- ・事前アンケートへの解答↓

厚生労働省からの就労支援事業所の取り扱いが「当分の間」継続するという事になっている。在宅サービスを市町村が事前に認めた場合、可能になる。

臨時休業の休業報告や緊急事態宣言時と同様の対応が継続することになる。

- ・奄美大島に現状入ってきていない状況はどうか  
⇒水際対策として、空港、港でサーモグラフィ検査及び宿泊先地区保健師の追跡調査をしている。「島旅のしおり」を作成し、来られる方へ、東京、大阪などで、帰省客に配布してもらっている。また、広報用のうちわを作成し、ホテルやレンタカーで配布し、啓発活動を行っている。  
飲食店に、消毒液の配布や間数の補充など、感染予防をしっかりとっていただけるような取り組みを行っている。
- ・GW前の自粛期間のマニュアルで自宅待機の方へのアプローチとして、電話を何度もかけられると嫌がる方もいるため、関係が悪くならないようなアプローチを教えてください。(柔軟な対応を)
- ・プラスに転じるような取り組みのアイデアはあるか。オンライン化など  
⇒各事業所でマスクを作って買い取ってもらったのはありがたかった。オンライン会議などについても検討していく。
- ・冬にかけてまたはやると思われるが、マスクよりも消毒用アルコールが手に入らないのが困った。事業所単体で手に入れにくいものを行政棟で備蓄できないか。  
⇒検討。防護服も注文できない。衛生用品全体が不足されることが予想されるので、対応を検討していきたい。
- ・コロナ対策を立てる上で、PCR検査をどのようなタイミングで受けていただくかの意識のずれはどのような状況なのか  
⇒保健所としての医療機関しかPCR検査ができない状況。個人的な受診の場合は、3万5千円から4万円ほどかかる。抗原検査、抗体検査は与論島では行っているが、奄美にはまだない。検査機械の導入が決ま

ったが、機械の注文ができず、秋口になる予定。現在は要望を出している状況。

#### 4.議題（事前にいただいた議題について）

##### 【新型コロナ対策について】

- 店舗対応（ビニールシート等）は行っている。フェーズごとに分けた基準を統一して共有している。
- アンケート作成

##### 【奄美地区での障害者就労について】

- 就労定着支援説明（夢来夢来、あまみ障害者就業・生活支援センター）  
⇒別紙資料に基づき説明

現在、11名利用。皆さん継続して勤務できている。

一般就労前の最終モニタリングに呼んでいただけると、説明や顔合わせができる。

定着支援の際は、基本的にはなかぼつは関わらない。

国としては、就労者の7割が定着支援を使っていくような方針である。

就労移行支援体制加算もとれるようになっていっているので、積極的に取り組んでいただきたい。

開拓員も企業開拓を行っているため、情報提供していきたい。

具体的な対象者がいれば、ピンポイントに就労開拓していくこともできる。

実習時はセンター登録で、実習保険もある。賠償もあるため活用していただきたい。

- 事業所利用者から、職員として雇用する場合は、どうなるか。  
⇒ジョブコーチはできないが、定着支援の場合は、後日調べてお答えする。
- 定着支援の方は、離職はゼロなのか。  
⇒30年度からは継続している。
- 奄美大島の企業の障害者理解はどうか  
⇒開設当初は、理解に乏しかったが、企業次第ではあるが、理解は進んできているように感じる。複数名雇用していただいている企業も増えてきている。実習することで理解が広がるようにも感じている。  
特に、精神の方への偏見は、離島でも根強くあった。実習することで理解は広がっているように思う。  
奄美市でのハローワーク求人はいまだにゼロだが、直接連絡して実習することで、ギャップが埋まる状況もある。得意、不得意を見極めて、進めていけばよいと考えている。
- 情報のオープン、クローズのそれぞれのメリット、デメリットは。  
⇒クローズで行けば、求人は増えるが、病院受診など、事業所とやり取りがしにくい状況もある。統計的には、オープンのほうが、定着率は高いように感じる。クローズでは、なかぼつが事業所に入っていないため、事業所の悩みを聞くことができない。
- 一般就労への相談件数は増えているか。障害種別での相談量の違いがあるか  
⇒様々なところから相談が増えている。ほかのなかぼつに比べ、精神障害の方の登録が多い。
- 雇用率の統計は取っているか。トライアル雇用の期間はどうか。通勤手段への補助は  
⇒ハローワークが取っているため、具体的には示さない。  
⇒トライアル雇用は、事業所を利用していけば、トライアル雇用を終了後、定着支援が入ることになる。  
⇒通勤手段は、それぞれ。奄美では交通手段がネックになっている。
  - 就労定着支援の際の行き違いや勘違いを調整するので、継続につなげることができるので、ぜひ利用していただきたい。

#### 5.その他（事務連絡等）

- 第1回「奄美地区障がい者就労に関する意見交換会」報告